



日清ファルマ

LS29-E5 日本農芸化学会2014年度大会
日清ファルマ株式会社 ランチョンセミナー

ネギ属含硫アミノ酸摂取でテストステロン(男性ホルモン)増!



[講演者] 西村 弘行 先生
北翔大学 学長・東海大学 名誉教授

近年、ストレス社会の中で、中・高年男性の男性ホルモンが減少し、「いろいろ」「意欲の減退」「性的機能低下」さらには「メタボリック症候群系の疾病」を発症させている。これは、LOH症候群(加齢男性性腺機能低下症候群)と呼ばれ、加齢に伴う臨床的・生化学的症候群で、血中テストステロン低下に特徴づけられている。LOH症候群の疾病および潜在患者数を合わせた人数が約600万人と推定されている。

食材の中で、タマネギ、ニンニク、ニラ、ギョウジャニンニクなどのネギ属野菜は、古くから強精作用が知られていた。しかし、男性ホルモンとネギ属食品との関係について、科学的研究が行われていなかった。そこで、老化促進モデルマウス(SAM)を用いた実験で、タマネギエキスを摂取させた場合に、血清中のテストステロン値が上昇することを明らかにし、その誘導物質を解明した。さらに、有効な加工技術を確認し、特許化した(「テストステロン増加剤、およびネギ属植物処理物の製造方法」特許第4172488号)。

タマネギを用いて、テストステロン誘導物質を種々検討した結果、含硫アミノ酸S-alk(en)yl-L-cysteine sulfoxideであることが判明した。そこで、男性ホルモン誘導機能性を高める有効な調理・加工技術を検討した。一般に、ネギ属野菜は、カット調理時に内在性の酵素(C-S lyase)の作用で、ネギ属含硫アミノ酸が減少する。そこで、含硫アミノ酸を最も高い濃度で保持するには、最初に丸ごと加熱し、予め酵素を失活させてから調理・加工すればよいことを明らかにした。

[司会] 福富 竜太 (日清ファルマ株式会社 健康科学研究所 所長代理)

[日時] 2014年3月29日(土) 12:30~13:20

[会場] 第二校舎 2号館 4階 E05会場

